取 扱 説 明 書

乗用草刈機

“ラビットモアー”

RMJ800

0294-0171

- ●取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- ●本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- ●取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。
- ●安全性維持のため、別紙点検表に従い年次点検をお受けください。(有料)

株式会社　オーレック

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目　　次

項　目　　頁

《はじめに》 1
《本製品の規制について》 1
《保証・契約書・免責事項》 1
《定義とシンボルマークについて》 2
《安全に作業をするために》 2
《機械を他人に貸すときは…》 6
《方向について…》 6
《各部の名称》 7
《各部のはたらき》 8
《上手な運転のしかた》 10
運転前の始業点検 10
エンジン始動・停止のしかた 10
走行・変速・停止（駐車）のしかた 13
トラックへの積み卸しのしかた 16
《上手な作業のしかた》 17
草刈作業のしかた 17
体格に合わせたハンドル高さの調整 19
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》 20
ミッションオイルの点検・交換・注油 20
エンジンオイルの点検・交換・注油 21
《注油・交換のしかた》 21
エアクリーナの清掃のしかた 22
点火プラグの点検・調整のしかた 23
燃料パイプの点検のしかた 23
タイヤ空気圧の調整のしかた 23
各部への注油のしかた 23
エンジン冷却系の清掃のしかた 24
各部ベルト・ワイヤ・ロッド調整のしかた 24
寒冷地での注意 27
《長期保管のしかた》 27
《ナイフの点検・交換のしかた》 28
ナイフの点検・交換 28
《仕　様》 30
《工具袋・同梱品明細》 30
《消耗品一覧》 31
《定期自主点検表》 32
《自己診断表》 33
《エンジンの不調とその処理方法》 34

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。
この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。
ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。
又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご用頂けますようご活用下さい。

《重要なお知らせ》

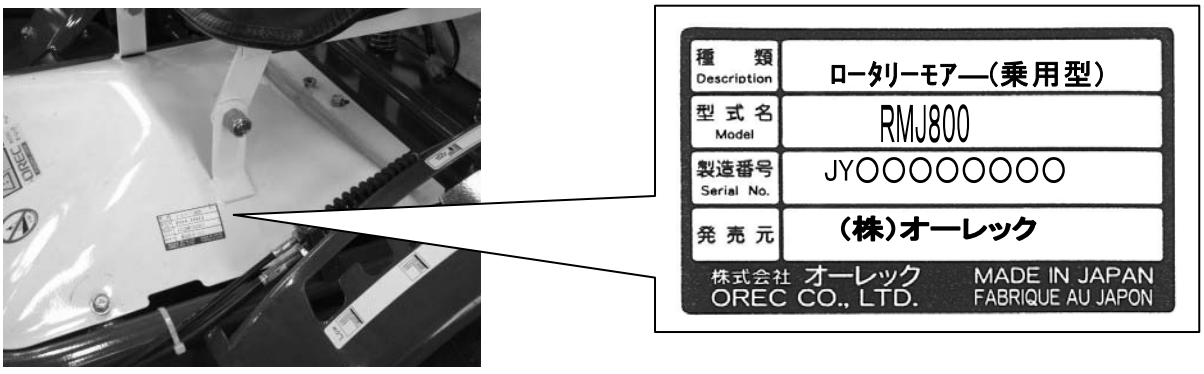
a)性能・耐久性向上及びその他諸事情による部品等の変更で、お手元の製品の仕様と本書の内容が一部一致しない場合があります。
b)本書の内容の一部又は全部を無断で複写複製(コピー)する事は、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので予めご注意下さい。
c)本書では説明部位が具体的に理解できるよう、写真、イラストを用いています。説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。
d)本書は日本語を母国語としない方のご使用は対象としていません。

《本製品の規制について》

本製品は農業用機械として開発しておりますので、これ以外の用途では使用しないで下さい。
この草刈機は乗車定員１名です。また道路及び一般交通に供するような場所(農道、林道、公共広場等)では走行出来ません。車両ナンバーを取得することも出来ません。

《保証・契約書・免責事項》

・本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を良く読んで理解しておいて下さい。
・本製品の保証期間は、新品購入から１ケ年間又は５０使用時間(請負業務用については６ケ月間、もしくは５０使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっています。
・全ての注意事項を予測する事は不可能であり、製品を使用する際には作業者側も安全への配慮が必要です。
・本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、必ず製品お買い上げの販売店(以降販売店)までご相談下さい。
・製品を安全に効率よくご使用し続けて頂くためには定期的な点検・整備が不可欠です。「定期自主点検表」及び「年次点検表」に記載のある定期的な点検・整備を必ず最低毎年１回は販売店まで依頼しましょう(有料)。これらの点検・整備を実行しなかった事及び仕様を越えた使用・改造等に起因する故障・事故については保証の対象外となりますのでご注意下さい。
・ご不審な点及びサービス等に関するご質問は、販売店までご相談下さい。その際、『製品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名(エンジン本体に刻印又は貼付されています。)』を併せてご連絡下さい。



◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、**製造打ち切り後９年**と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

シンボルマーク	定　　義
⚠ 危険	回避しないと、死亡または重傷を招く確率の高い危険な状態を示します。
⚠ 警告	回避しないと、死亡または重傷を招く可能性がある潜在的な危険状態を示します。
⚠ 注意	回避しないと、軽傷または中程度の傷害を招く可能性がある潜在的な危険状態を示します。
注意	回避しないと物的損害を引き起こす可能性がある潜在的な危険状態を示します。
（参 考）	操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

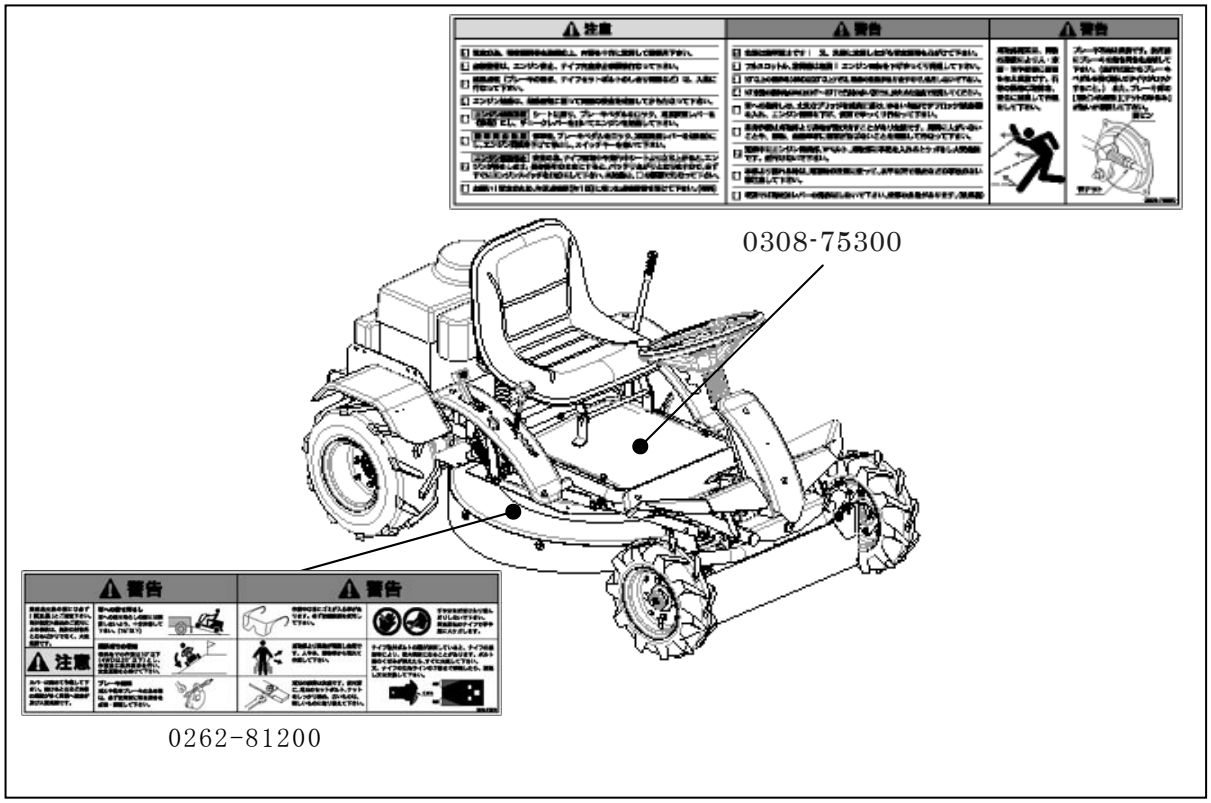
（１） 警告表示マーク

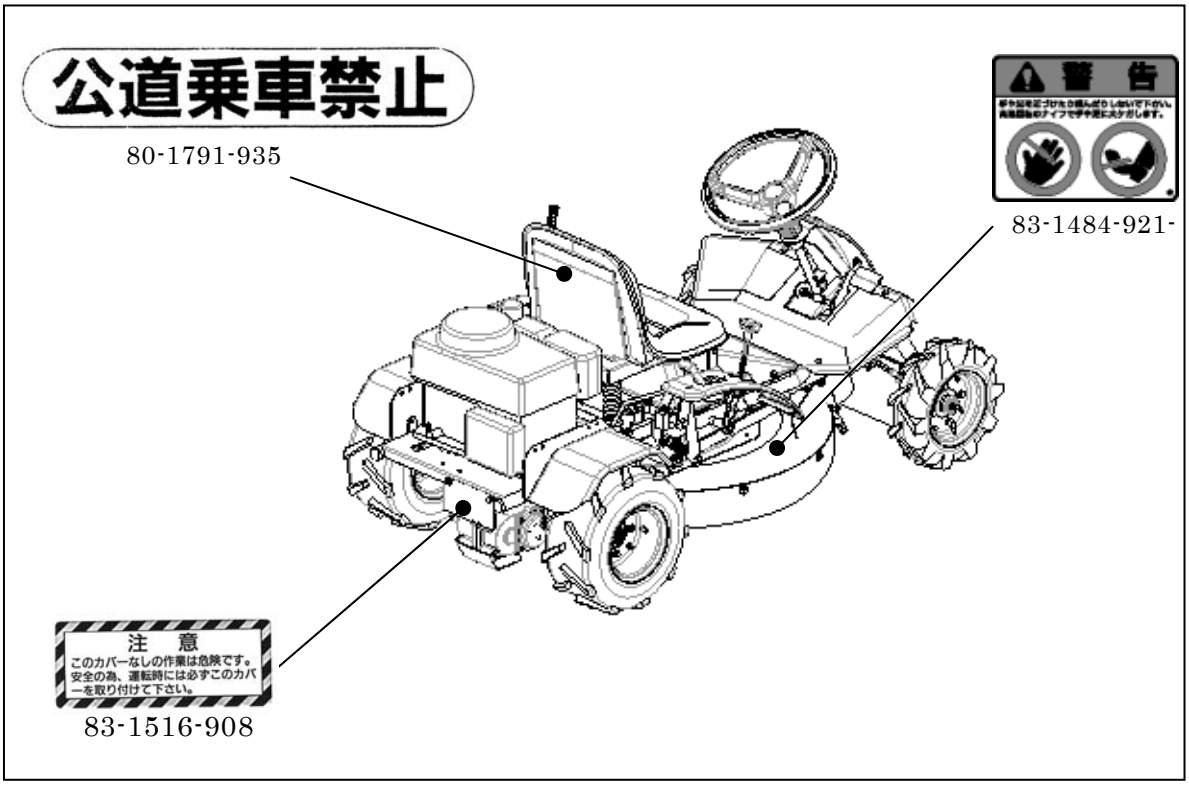
・以下の警告表示マークは本項目内における重要危険事項の中から特に重要なものとして本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読みいただき、内容を十分理解して必ず守って下さい。

●警告表示マークが見えにくくなった場合には、必ず同じものを必ず販売店で購入し、同じ場所へ貼り付けておいて下さい。　〈30 頁…消耗品明細　参照〉

⚠警告

・本製品はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん本製品のそばでのくわえたばこや焚き火等は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。





（２）作業前の注意

⚠危険

- **排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。**
- 転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ナイフクラッチが「切」位置の時、ナイフプーリが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合にはエンジンを止め、ベルト押え､ナイフクラッチワイヤを調整して下さい。

〈25 頁・２６頁…参照〉

⚠警告

- **本製品は道路運送車両法の型式認定を受けておりませんので、公道での走行は絶対にしないでさい。道路上の走行による事故及び違反につきましては責任を負いかねます。**
- 駐車ブレーキの効き具合を毎回必ず確認しておいてください。ブレーキの調整不良は重大事故を招きます。確認は以下のいずれか又は複数で行ってください。
  ①変速レバー「Ｎ」位置で、駐車ブレーキをかけ大人二人で押しても動かない。
  ②走行させ、急ブレーキをかけた時にタイヤがロックする。
  ③軽トラックの荷台にかけた７尺ブリッジ上で駐車ブレーキをかけて動かない。
- 本製品は一人乗りです。作業者以外の人や動物等は乗せないで下さい。
- 本製品の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- 過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業をさせないで下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者(中学生以下)、未熟練者にも作業をさせないで下さい。
- 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用しヘルメット、防護眼鏡(製品付属)等を必ず使用して下さい。
- 作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等がいないことを確認し、作業中は半径１０ｍ以内にこれらのものを近付けないで下さい。

⚠警告

- **安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている安全装置及び関連部品を外したままの運転は非常に危険です。事故防止のため、これらの部品は必ず装着した状態で使用して下さい。**
- **ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかり締めて下さい。又、古いものは新しいものに取換えて下さい。**
- **ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。**
- 小石やその他の異物は取り除き、障害物は事前に目印となる物をつけた後で作業を開始して下さい。又、このような圃場では、安全のために通常よりも高刈りで作業を行って下さい。ナイフが欠けたり石等の異物が飛散し危険です。
- **１０°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が１５°を越えると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用下さい。**
- **暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できない時には使用しないで下さい。**
- 安全作業の障害となるような**本機の改造は絶対にしないで下さい**。これらの改造に起因する事故及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。

⚠注意

- **前回の作業終了後に確認された要修理箇所等について、確実に修理が行われている事を作業開始前に必ず確認し、修理が完了するまでは絶対に作業を開始しないで下さい。**
- 必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときはしっかり締めて下さい。
- **安全のため、斜面では一定の速度を保ち、不要な変速レバーの操作は控えて下さい。スリップ・転落・滑落等の危険があります。**
- 平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。
- 十分に安全な平坦地を走行して下さい。

（３）燃料給油時の注意

給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下(傾斜地使用の場合には更に少なく)にし、万一多く入れ過ぎた時はマーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ず拭き取って下さい。

⚠注意

- **火傷や火災の危険があります。給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。**

（４）始動時の注意

- エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- 刈高調整レバーは「移動」位置、クラッチブレーキペダルは踏み込んで(又はロックして)始動して下さい。
- 回りに人や動物や車両等がない事、又周囲の安全を確認してから始動して下さい。

（５） 積み降ろし時の注意

・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて確実に駐車をして下さい。
・丈夫なブリッジを確実に掛け、１５°以下の緩い勾配でエンジン回転を下げて下さい。
・積み込み時は「前進」、降ろす時には「後進」でいずれも低速で行って下さい。

〈16 頁…参照〉

（６） 作業中の注意

・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。
・バックする時は、人や動物等がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様に注意して下さい。
・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

⚠警告

・回転部分、特に刈取デッキ内は危険です。身体を近付けないで下さい。
・石等、危険物の多い場所ではこれらをできる限り取り除き、障害物のある場所には目印をつけ、安全のため通常よりも高刈りで作業をして下さい。ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。

⚠注意

・排気マフラは高温となります。本機への乗り降り時等にマフラに手をかけると、火傷を負います。手などを近づけないで下さい。
・刈取部からは石等の異物が飛散し、周囲の人や車、建物等に被害が及ぶ恐れがあります。作業中はこれらのものと十分(半径１０m以上)な距離を置き、安全に注意して下さい。

注意

・冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行って下さい。
・作業中、異物と衝突した時は**直ちにエンジンを停止**しナイフ回転の停止後必ず**ナイフ、及びカバー類の欠けや曲がりの有無を調べ、**必要に応じ**修正・交換下さい**。
・刈取った草は本機右側から後方へ排出されます。

（７） 作業終了後の注意

・本機から離れる時は必ずエンジンを止めてクラッチブレーキペダルをロックし、作業終了後は燃料コックも閉めておいて下さい。

（８）点検・整備時の注意

⚠警告

・ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。作業中に異常を感じた箇所はそのままにせず、必ず作業を中断して点検、また作業終了後に再度点検し、必要な修理をしておいて下さい。

・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。

・ナイフセットボルトは安全のためナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

注意

・品質及び性能維持のためには定期点検が不可欠です。始業・月次点検は所有者ご自身で、年次点検は販売店(有料)へご依頼下さい。定期点検を怠ったことによる事故・故障については責任を負いかねますのでご注意下さい。

・燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。３年毎、又傷んだ時には締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

・点検・整備又はシートをかける場合には火傷や火災を防ぐため、エンジンの停止後マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。(エンジン停止後５分以上経ってから)

・ナイフブレーキ、走行(駐車)ブレーキは安全の為使用時間が１００時間に到達しない時点でブレーキシュー又はその全体を交換して下さい。

《機械を他人に貸すときは…》

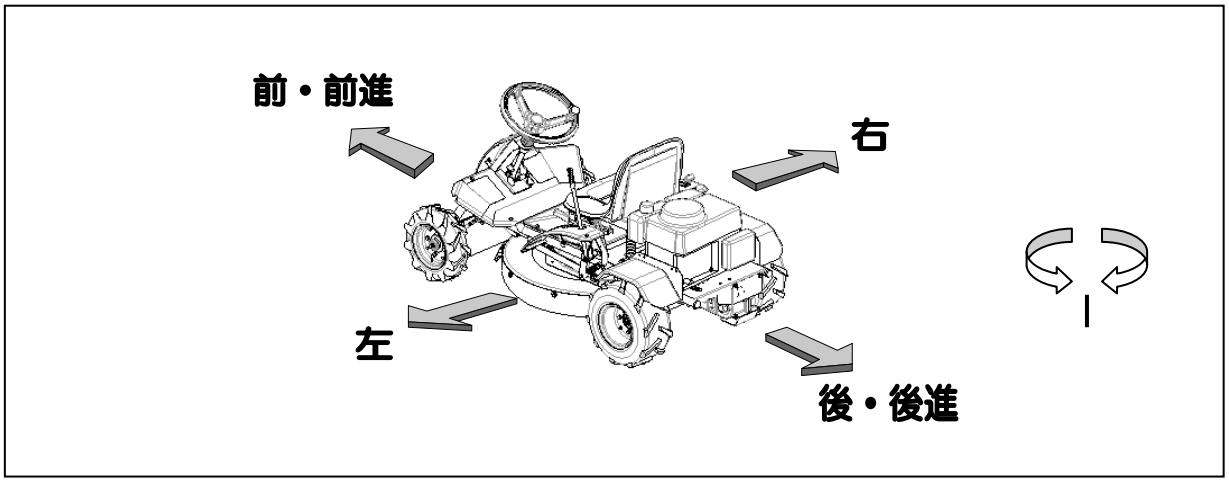
所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

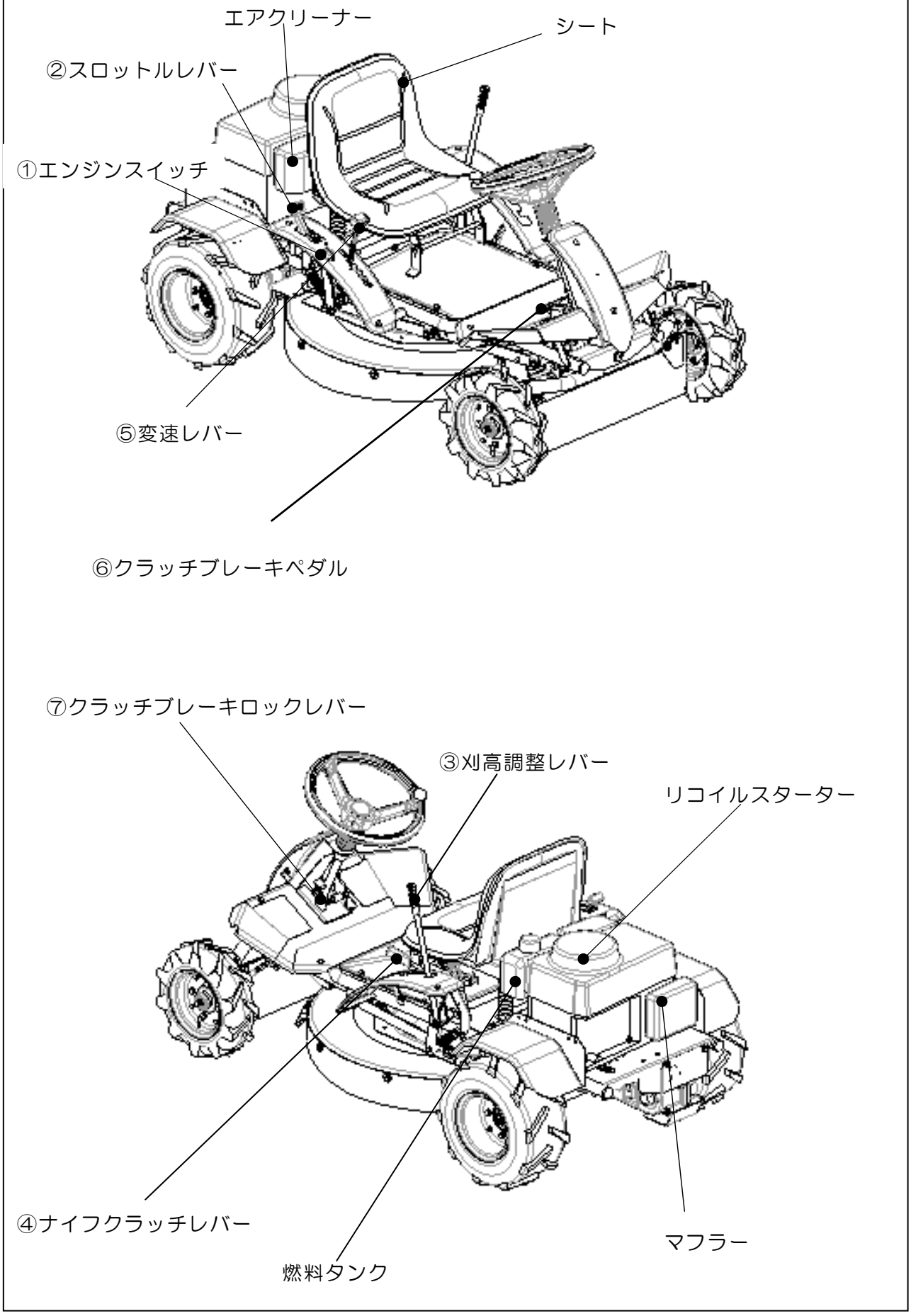
親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《方向について…》

本機の前後左右は、下図のようにシートに座った作業者から見た方向で表します。
本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者からみた方向で表します。



《各部の名称》


エアクリーナー
シート
②スロットルレバー
①エンジンスイッチ
⑤変速レバー
⑥クラッチブレーキペダル
⑦クラッチブレーキロックレバー
③刈高調整レバー
リコイルスターター
④ナイフクラッチレバー
マフラー
燃料タンク

《各部のはたらき》

①エンジンスイッチ

エンジンの「ON」、「OFF」を行います。

②スロットルレバー

「 低 」～「 高 」までのエンジン回転数を調整し、「 N 」位置でチョーク位置になります。エンジン始動時にはこの「 N 」位置にします。エンジンが暖まっている場合には「 低 」～「 高 」の中間位置でスタートして下さい。

③刈高調整レバー

- レバーを握り、少し持ち上げながらレバーを上下させ所要の高さに合わせてガイドのロック位置に確実に入れ込みます。刈高さは次の４段階です。
- 刈取り高さは、地面の条件により左記の数値と異なる場合があります。

刈高調整レバー位置(標示板)	刈高さ(目安) mm
①	10
②	20
③	40
④	50
移動	—

⚠注意

- 刈高さ調整後、刈高調整レバーがロック位置に確実にセットされているか、確認して下さい。
- 安全のため、作業圃場に乗り入れるとき、出るとき、また後進時には刈高調整レバーを手前に引いて、「**移動**」位置にして下さい。

④ナイフクラッチレバー

レバー位置　「**入**」… ナイフ回転　「**切**」… ナイフ停止

⑤変速レバー

・変速はシートに座った状態で、手前方向から順に**「後進」**R、**「中立」** N、**「前進」**が①･②･③･④の４段階になっています。

・**「低速」**①→②→③→④**「高速」** の順番で速度が変わります。発進は、変速レバーが N（中立)以外のどの位置からでも可能です。

前進又は後進への切替は、本機が完全に停止してから行って下さい。走行中に切替えを行うと動力伝達機構が破損します。

⑥クラッチブレーキペダル

・走行速度を切換える際に踏み込みます。さらに踏み込むとブレーキがかかります。

・安全のため、変速レバーを切換える際にはクラッチブレーキペダルを一杯に踏み込んで本機を停止させた後、変速レバーの操作を行って下さい。ペダルを踏み込んだままブレーキストッパでロックすると駐車ブレーキとなります。更に深く踏み込むとロックは解除します。

◇◇ペダルを踏み込んで（ロックして）いないと、エンジンは始動できません◇◇

⚠警告

・駐車ブレーキの効き具合を毎回作業開始前に必ず確認して下さい。駐車ブレーキの調整不良による事故は衝突、転落等即重大事故につながる可能性があります。ご自身のみならず、ご家族の幸せを守る為にも必ず施行下さい。 ＜調整方法 25 頁参照＞

⑦クラッチブレーキロックレバー

・駐車時に、クラッチブレーキペダルのアームに掛けてロックし、駐車ブレーキとして使用します。解除する場合はそのままクラッチブレーキペダルを深く踏み込むと、ロックレバーは解除されます。

《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために**「定期自主点検表」**〈31 頁参照〉に従って始業点検を行い、前日の作業で確認された異常箇所は必ず整備をした後に作業を始めて下さい。

⚠警告

・本機に貼られている危険マーク、注意マークも良く読んで下さい。

エンジン始動・停止のしかた

（参考）

・**必ず**クラッチブレーキペダルは踏み込んで(ロックして)始動して下さい。ペダルを踏み込まれた状態にないと安全スイッチが働いてエンジンは始動しません。

・**必ず**刈高調整レバーは「移動」位置にして下さい。「移動」位置以外では安全スイッチが働いてエンジンは始動しません。

安全のため、エンジン始動の際には以上２つの「**必ず**」はぜひ守って下さい。

各操作方法を十分に確認の上、エンジンを始動させましょう。

⚠危険

①エンジン始動時には、各レバーの位置と周囲の安全を十分に確認して下さい。

②締め切った室内でエンジンを始動及び暖機運転をしないで下さい。

… 閉め切った室内でエンジンを始動すると …

有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。

③ガソリンエンジンを搭載していますので、作業中のくわえタバコや本製品の傍での焚き火は引火の危険があります。絶対に行わないで下さい。

（参考）

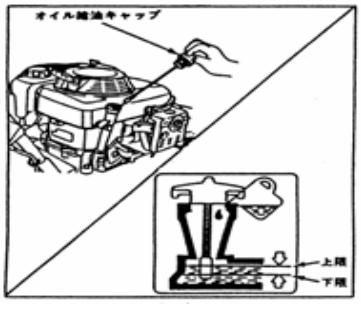
・エンジンの停止は必ずエンジンスイッチで行って下さい。

・エンジン始動後は、クラッチブレーキペダル及び刈高調整レバーの位置に関係なくシートに座っていればエンジンは停止しません。

⚠注意

・エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

◆エンジン始動のしかた



① エンジンオイルを確認して下さい。

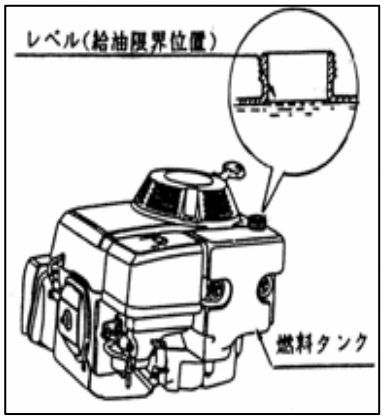
給油栓先端がオイルゲージになっています。ゲージ部分を布で拭き、再度差し込んでオイルレベルを確認して下さい。上と下の目盛線の間にオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。(オイルは少しずつ消費され減少します)

注意

・エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。
・使用するエンジンオイルはＳＤ級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

夏季（１０℃以上）	ＳＡＥ３０，ＳＡＥ１０Ｗ－３０，又はＳＡＥ４０
冬季（１０℃以下）	ＳＡＥ５Ｗ２０，又はＳＡＥ１０Ｗ－３０

⚠警告



・燃料給油時は換気の良い場所でエンジン停止後に行って下さい。
・エンジンとマフラが冷えた後、本製品の金属部分に手を当て体内の静電気を除去しておいて下さい。
・入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。
（特に傾斜地での使用の場合には給油口内フィルタの規定油面上限以下で使用して下さい。傾斜により燃料が漏れ出す恐れがあります。）

②燃料を確認して下さい。
・燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。〈燃料タンク容量は 30 頁…仕様参照〉
・燃料は給油限界位置以上入れないで下さい。路面の凸凹、斜面での燃料漏れに繋がり危険です。
・燃料補給後は燃料キャップを確実に締め付けて下さい。

⚠注意

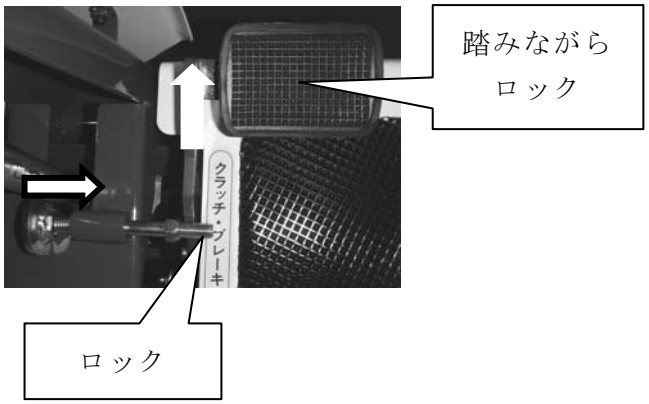
・燃料は常に新しいもの使用して下さい。古い燃料又は長期間(３ケ月以上)ポリタンクに保管した燃料は、エンジンの不調や破損の原因となることがあります。

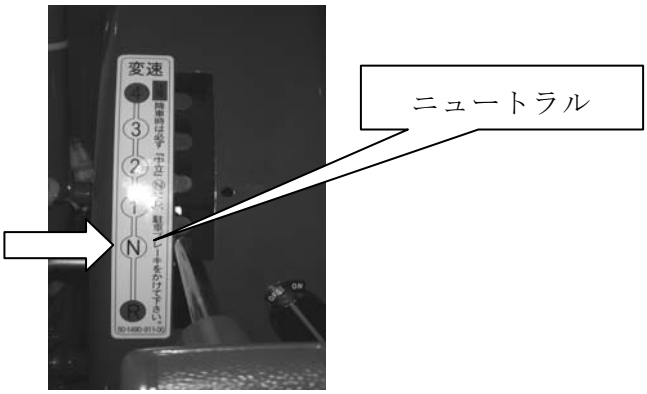
③燃料コックを「ON」位置にしてください。

④エンジンスイッチを「ON」にして下さい。

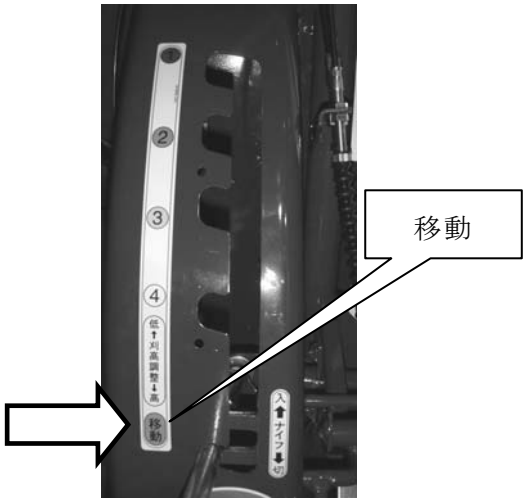
④平地に駐車し、周りを確認して下さい

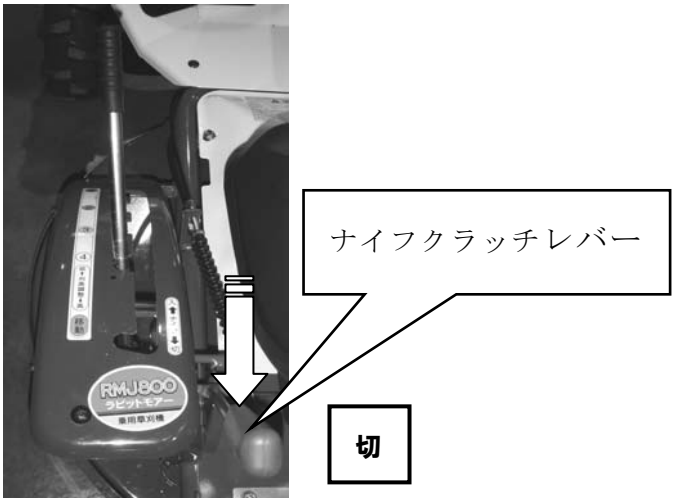
⑤クラッチブレーキペダルを踏み込んでロックして下さい。また変速レバーを中立「N」位置にして下さい。





⑥刈高調整レバーを「移動」位置、ナイフクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

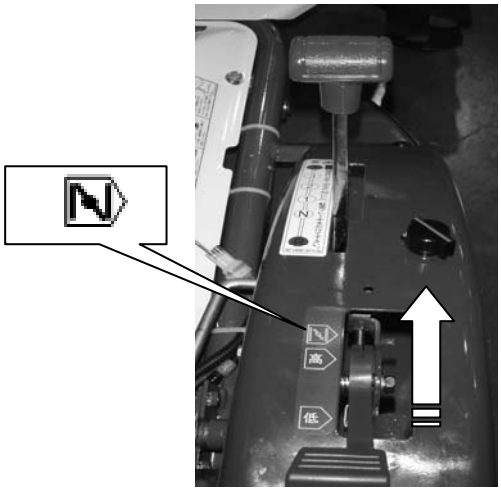




（参考）

・ナイフクラッチレバーは刈高調整レバーと連動しています。刈高調整レバーを「移動」位置まで移動させるとナイフクラッチレバーも連動して「切」位置まで戻ります。

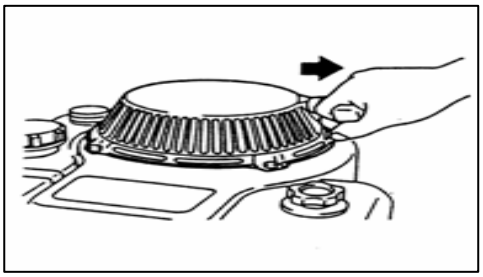
⑦変速レバーが中立「N」位置にあることを確認した後、スロットルレバーを「 N 」の位置にして下さい。



（参考）

・エンジンの暖機が済んでいる場合には「 低 」～「 高 」の中間位置にしてください。

⑧リコイルスターターノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を　感じる位置から勢いよく引っ張ります。



⑨エンジンの始動後直ちにリコイルスターターノブをゆっくりと元の位置に戻してください。

⑩エンジン始動後はスロットルレバーを低速側「 低 」位置に戻し、しばらく（５分程度）暖機運転をして下さい。

（参考）

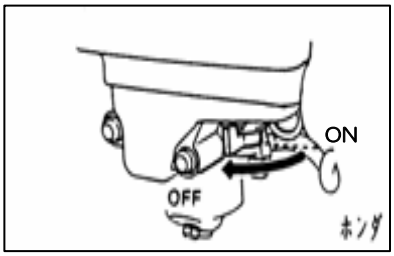
- 暖機運転を行う事により、エンジンの各部にオイルを行きわたらせ寿命を延ばします。
- 新製品購入後、最初の一週間(３～４時間)は慣らし運転として、高負荷をかけない様に控えめな運転を心がけてください。

⚠警告

- 暖機運転中は必ずクラッチブレーキペダルは「ロック(駐車)」しておいて下さい。急に動きケガをする恐れがあります。

◆エンジン停止のしかた

① スロットルレバーを一旦「 低 」の位置に戻し、回転が下がったところで、エンジンストップスイッチを「OFF」の位置にして、エンジンを停止させてください。



② 燃料コックを「OFF」位置にしてください。

走行・変速・停止(駐車)のしかた

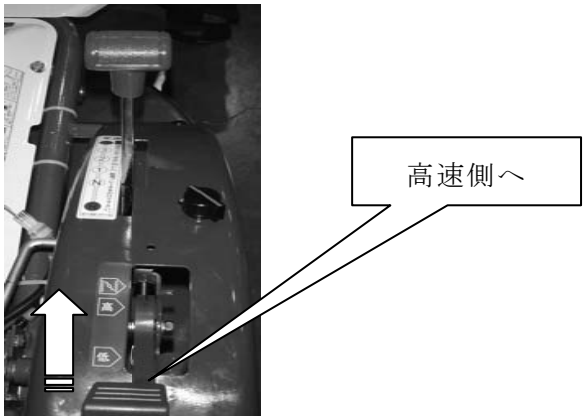
⚠警告

- 安全作業や操作方法についての未熟練者(所有者以外の人)は使用しないで下さい。
- 初めて走行する時は周囲の安全を確認し、製品の操作、特徴に慣れるまで周りに障害物のない平坦な場所で且つ低速で練習を十分に行って下さい。いきなり高速で走行すると、とっさの場合に操作に戸惑い危険です。
- 後進「Ｒ」が１段、前進が４段です。「低速」①→②→③→④「高速」の順で速度が速くなります。④は移動用です。作業には使用しないで下さい。

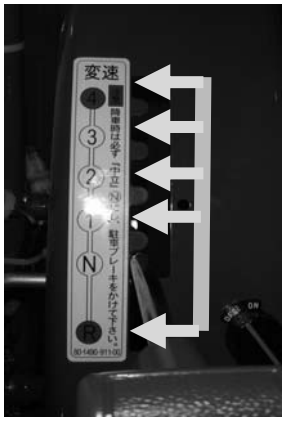
◆走行のしかた

①エンジンを始動させて下さい。　〈10・11 頁エンジン始動のしかた参照〉

②スロットルレバーを「低」から「高」へ倒しエンジンの回転を上げて下さい。

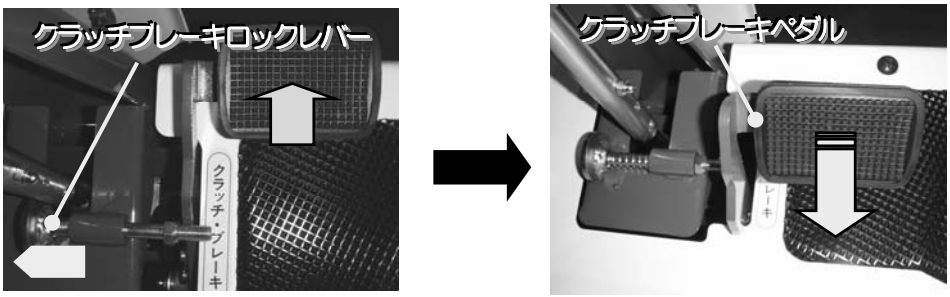


③変速レバーを所要の変速位置に確実に入れて下さい。



④クラッチブレーキペダルを深く踏み込み、駐車ブレーキのロックを解除して下さい。

⑤クラッチブレーキペダルをそのまま<u>ゆっくりと</u>戻していくと発進します。



（参考）

・⑤でクラッチブレーキペダルを<u>ゆっくり</u>と戻していく際、<u>スロットルを</u> 低 」位置にしておくと、発進時のショックが少なくて済みます。

⚠注意

・不確実な変速の操作(ギアチェンジ)はギヤ抜けの恐れがあり大変危険です。ギヤが入りにくい時には無理に入れずに、クラッチブレーキペダルを「入」方向へ少し動かしてから再度、変速の操作をおこなって下さい。

◆変速のしかた

① クラッチブレーキペダルを踏み込み、本機を停止させて下さい。

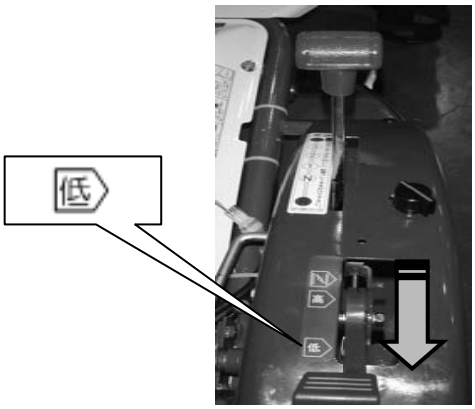
②発進時と同じ要領で変速操作を行い、再発進して下さい。

⚠注意

・走行させながらの変速操作は危険なだけでなく、故障の原因となります。
・傾斜地での変速操作はしないで下さい。滑落等ケガの原因となります。

◆停止（駐車）のしかた

①スロットルレバーを「低」位置にしてエンジン回転を落として下さい。



②クラッチブレーキペダルを踏み込み、本機を停止させて下さい。この際、変速レバーは前進「①」又は後進「R」位置に入れておいて下さい。ブレーキのかかった状態で、クラッチブレーキペダルのアーム部にロックレバーを掛け駐車して下さい。

③ ②の状態（変速レバーが前進「①」又は後進「R」位置で且つクラッチブレーキペダルがロックされている）のまま、エンジンを停止して下さい。　　<13 頁エンジン停止のしかた参照>

（参考）

・緊急時には、まずクラッチブレーキペダルをいっぱい踏み込んで下さい。走行クラッチが切れ続けてブレーキが掛かる一連の操作が行えます。

⚠警告

・クラッチブレーキペタルはブレーキがかかる位置まで一気に踏み込んで下さい。ゆっくりと踏み込むとクラッチが切れ、ブレーキが利き始めるまでに瞬間的に中立「N」位置になります。特に傾斜地での操作については十分に注意して下さい。

⚠注意

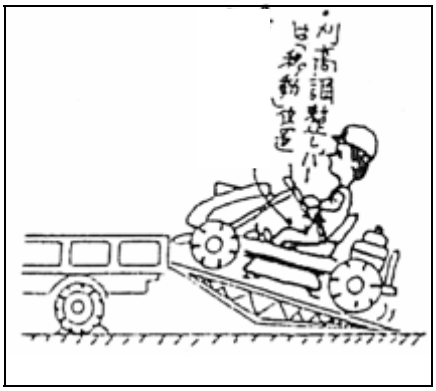
・本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車して下さい。やむを得ず緩斜面に駐車する必要がある場合にでも、傾斜に対して上下ではなく、等高線上に沿って駐車して下さい。（いずれの場合にも、本機が不意に動き出す事の無い様、必ず市販の輪止め等を使用するようにして下さい。）

トラックへの積み降ろしのしかた

⚠警告

・必ずブリッジを用いてください。本製品を吊っての積み降ろしはフレーム変形等不具合の原因となる場合があります。
・ブリッジの途中で停止しないでください。特に後荷重の場合には再発進する際に前輪が浮き上がる場合があり危険です。積み降ろしは低速で一気に行って下さい。
・使用するトラックは荷台に天井(幌)のない物にして下さい。積み降ろし時、天井の高さによっては作業者と衝突する恐れがあります。
・平坦で安定した場所を選び、且つ公道では行わないで下さい。
・使用するトラックは本製品の総重量と運転者の体重の総和に耐えうる物として下さい。
・複数で作業をする場合には事故防止の為、トラック運転者との合図を予め決めておいて下さい。
・夜間の積み降ろし作業は危険です。やむを得ない場合には、十分な照明を得られる場所を選んで作業を行って下さい。特に、ブリッジとタイヤとの位置関係が作業者から確認し難いと転倒の危険があります。
・トラックはエンジンを止め、サイドブレーキを引いてタイヤには輪止めをして下さい。
・刈高調整レバーは必ず「移動」位置にして下さい。ナイフがブリッジと接触して転倒する恐れがあります。
・ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう、又外れないように確実に掛けて下さい。
・本製品左右のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして下さい。
・荷台上ではエンジンは停止し、燃料コックは「閉」して下さい。
・使用するロープは十分に強度のある物で本製品を確実に固定し、荷台上に確実に固定できる物を使用して下さい。

◆積み降ろしのしかた



① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。

② 基準にあったブリッジを使用して下さい。

③ スロットルレバーは「高」、「低」の中間位置にして下さい。

④積み込む場合は「前進」、降ろす場合は「後進」位置でどちらも低速で行い、その他の位置には入れないで下さい。

⚠注意

ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。

●長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの。(軽トラックには7尺が目安)
(ブリッジの傾斜角度は１５°以下)

● 幅 …本機の車輪幅にあったもの。

●強度…本機重量､及び作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。

●スリップしないように表面処理が施してあるもの。

《上手な作業のしかた》

草刈作業のしかた

⚠警告

・刈り取られた草は本製品右側のカバーから吐き出されますが、石塊、針金、空き缶等の異物は刈取部全周より飛散し、周囲に被害を及ぼす恐れがあります。建物の近く又　は異物が多い圃場では作業前にこれらを取り除き、高刈りをするか作業範囲内に人(特に子供)、車両等が入り込まないよう、草刈り中である旨の立て札やガードロープを張る等して、半径１０m以内にこれらのものを近づけないで下さい。

・圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩､傾斜(限界傾斜角度１０°)のあるところ､地面の凸凹等危険な場所には接近しないように注意し、転落や衝突事故を防ぐため、建物、川やガケ、人のいる方向に向かっての作業は行わないで下さい。

・傾斜地での作業では、本製品の上側(山側)に立つ事は特に危険です。足を滑らせると回転するナイフに巻き込まれ、大怪我をする恐れがあります。

・ナイフに絡み付いた草や針金その他の異物を取り除く際は、必ずエンジンを停止し、ナイフの回転が止まっていることを確認した後にして下さい。

・前回の作業で不具合が確認された箇所が確実に補修されている事を確認するまでは、作業を開始しないで下さい。

・作業を安全に行う為、28 頁を参考に、**ナイフの作業前点検を行って下さい。**

・ナイフの脱着には必ず付属の専用工具を使用して下さい。使用しないと十分な締付トルクが得られず、取付ボルトの脱落によりナイフが飛散する危険があります。

⚠注意

・④速で作業する時は速度が速い為、十分注意して下さい。

・作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又はヘルメット、防塵メガネを必ず着用して下さい

・切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に取り除いて下さい。

・約５０mm以上の段差乗り越しは必ずブリッジを使用して下さい｡高速での段差乗り越しは、転倒事故や故障の原因になります。また、乗り越しは必ず低速で行って下さい。高速での乗り越しは５０mm以下の段差であっても故障の原因となるばかりでなく大変危険な行為です。

・前輪が穴や溝に落ち込んだ場合はハンドルをむやみに回さず必ずエンジンを停止したうえで本製品を持ち上げて脱出して下さい。むやみなハンドル操作は､故障の原因となります｡

・走行中、作業中の切り株、縁石等への前輪衝突は故障の原因となります｡

・**枝下作業時や斜面作業時には、枝との挟まれ・転倒等に細心の注意を払って**作業をして下さい。

（参考）

・初めて本製品を使用するときは石等の異物のない平坦地を選び、ゆっくりと刈り跡が少し重複するようにまっすぐ刈って下さい。
・刈取られた草は本製品右側から後方へ排出されます。障害物の枕刈は、木、柱、塀及び他の障害物を常に本製品の左側に置いて下さい。(回り刈りの場合は左旋回して下さい)

① エンジンを始動させて下さい。　　〈10・11 頁エンジン始動のしかた参照〉

② スロットルレバーを「高」位置にしてエンジン回転を上げて下さい。

③ 作業状況に合わせて刈高調整レバーを①･②･③･④いずれかの
位置に確実に入れて下さい。
〈各位置の刈高さの目安は 8 頁…各部のはたらき参照〉

④続けてナイフクラッチレバーを「入」位置までゆっくりとたおして下さい。

◇◇ナイフが高速で回転しますので十分に注意して下さい◇◇
◇◇ナイフクラッチレバーの操作はゆっくりと行って下さい◇◇

ナイフクラッチレバー
(ゆっくりと倒す)

⑤本機をスタート、作業を開始して下さい。　〈14 頁…走行のしかた参照〉

⑥作業の終了は上記と逆の操作手順で行って下さい。
特にナイフクラッチを戻す時には、まず確実にナイフクラッチを「切」へ戻し、その後に刈高調整レバーを「**移動**」の位置まで上げて下さい。

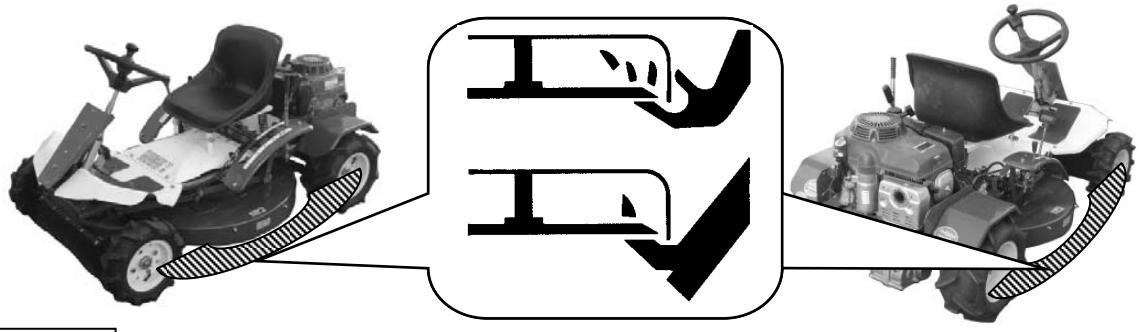
⑦エンジンを停止して下さい。　　〈15 頁…停止(駐車)のしかた参照〉

（参考）

・本機の停止後、刈高調整レバーを「**移動**」位置まで戻せばナイフクラッチレバーも連動して「切」の位置まで戻りますが、通常は常に上記⑥の操作に従い作業を行って下さい。
・刈高調整レバーが「**移動**」位置ではナイフクラッチレバーの操作はできません。
・作業終了後、本機から離れる時には必ずエンジンは停止して下さい。

⚠警告

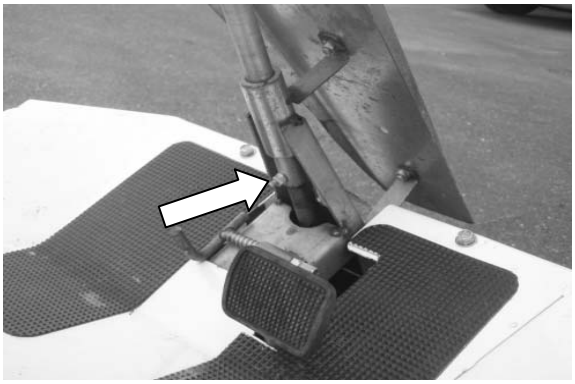
- 作業中、障害物に当たった時はすぐにエンジンを停止し、異常があればすぐに修理をして下さい。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。ナイフの回転中は左右両サイドカバー内側一杯までナイフがきますので、作業中は絶対に草等をナイフカバー内に足等でけり入れないようにして下さい。



⚠警告

- エンジンに草・木の葉等を堆積させないで下さい。これらの可燃物が堆積すると火災の原因になったり、本機を破損する場合があります。
- 草の量が多く、エンストするようであれば、作業速度を落とすか、刈高さを１段上げるか数回に分けるかして刈るようにして下さい。
- 草が濡れている時、又は雨天の場合などは本機がスリップしたり草がナイフカバー内等に詰まって無理をします。このような場合には作業を中断し、草が乾いてから作業を開始して下さい。雨天の作業は危険です。

体格に合わせたハンドル高さの調整



・ハンドルの高さは、使う人の体格によって上下３段階で調整することができます。ハンドルシャフトを固定しているボルトとUナットで調整して下さい。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

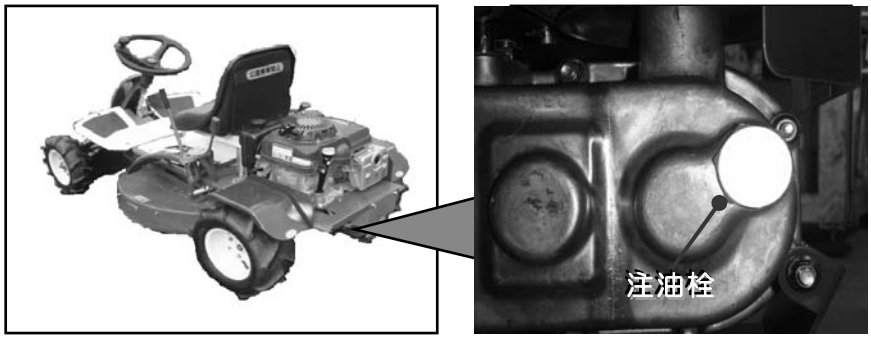
⚠注意

- **出荷時本機にオイルは入れてありますが、初めて本機をご使用になる前には、必ず指定の箇所に指定のオイルが指定の量だけ入っているかを確認して下さい。**
- 定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを(約５分以上待ってから作業を行って下さい。
- **エンジン停止後、すぐに作業を行うとエンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。**
- エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。
- 安全のため作業が終了するまで点火プラグキャップは点火プラグより外しておいて下さい。

■交換後の廃油は適切な処理をして下さい。■

ミッションオイルの点検・交換・注油

（１） ミッションオイルの点検のしかた

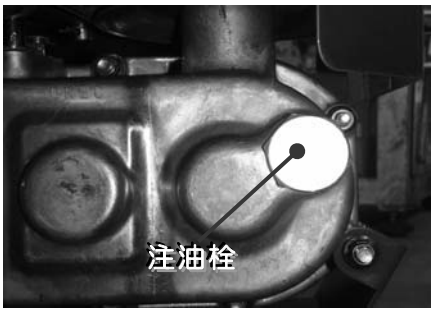


・ミッションケース左側面上部の注油栓より確認して下さい。注油栓を外してミッションオイルが目視で確認できれば(注油口いっぱいまで)ほぼ規定量のミッションオイルが入っています。

（２）ミッションオイルの交換のしかた

・オイルを受け取る適当な容器を用意し、初回は 20 時間目、それ以降は 100 時間を目安にミッションケース左側下部のドレンプラグ(排油栓)を外して行って下さい。

（３）ミッションオイルの注油のしかた



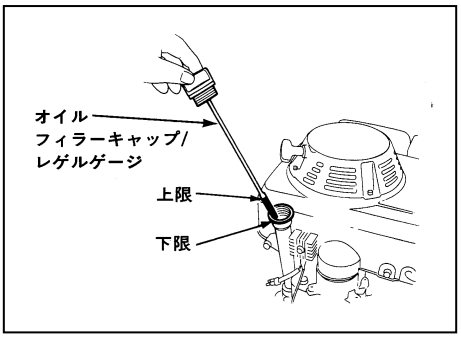
・ドレンプラグ(排油口)を取り付けた後、ミッションケース左側面上部の注油口よりミッションオイル(＃90)を 1.6 ﾘｯﾄﾙ入れて下さい。

※注油後は、オイル漏れのないように注油栓をしっかり締め付けて下さい。

※注油栓のガスケットが取り付け面に接触してから更に 3/4 回転ねじ込んで下さい。

エンジンオイルの点検・交換・注油

◆点検のしかた



給油栓についているレベルゲージで、エンジンオイルの質・量を毎日、もしくは８時間使用毎に点検して下さい。
〈10 頁…エンジン始動のしかた参照〉

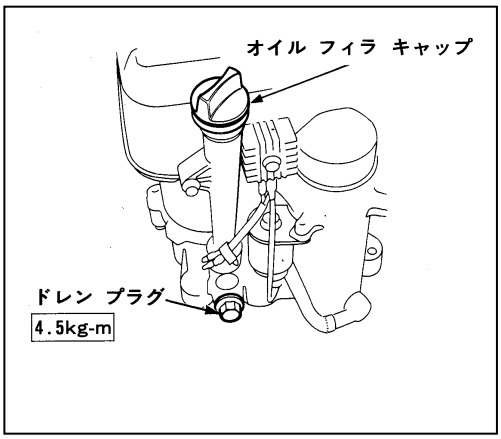
① 常にレベルゲージの上限までエンジンオイルは入れておいて下さい。

◆注油・交換のしかた

⚠注意

・初回は 5 時間目、それ以降は 25 時間運転毎、もしくはシーズン毎のいずれか早い時期を目安に交換して下さい。

・但し、負荷条件の厳しい作業条件や高温環境下で連続長時間使用される場合は、上記時間に達する前、早め(約半分の時間)のエンジンオイル及びフィルタの交換をお奨めします。

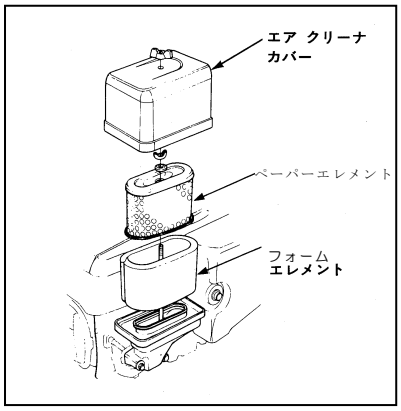


① 走行テンションバネアームを解除して下さい。
〈24 頁　走行ベルト調整のしかた参照〉
② オイルを受け取る適当な容器を用意し、オイル給油栓を外した後、エンジン後部のドレンボルトを工具を使ってゆるめて下さい。廃油口より下方に廃油します。
③ オイルが抜き終わったら元の通りにドレンボルトをしっかりと締め付けて下さい。
④ 10 頁を参照しながらエンジンオイルを注油して下さい。　〈エンジンオイル量は 29 頁 仕様参照〉
⑤ エンジンオイル注油後、オイルがにじみ出ないよう、注油栓はしっかりと締め付けておいて下さい。

エアクリーナの清掃のしかた

⚠警告

・エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇して燃料への引火、火災の原因となり大変危険です。必ず定期的な清掃を励行して下さい。



① エアクリーナカバーを外す。
② エアクリーナケースからフォームエレメントとペーパーエレメントを外す。
③ フォームエレメントは中性洗剤で洗浄後よく絞り乾燥させて下さい。
④ ペーパーエレメントは軽く叩くか､内側からエア吹きしてホコリやゴミを落として下さい。汚れがひどい場合は交換して下さい。
⑤ ケース内部の汚れをウエス等でふき取り､元の通りに組み付けて下さい。

（参考）

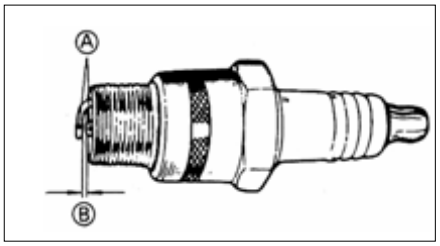
・ペーパーエレメントの汚れがひどい場合には新品と交換するか、石鹸液で洗浄(ふり洗い)した後水洗いし、よく乾かして下さい。
・フォームエレメントは強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れます。
・ペーパーエレメントを叩く時にはろ紙を傷付けないように注意して下さい。
・ろ紙をブラシでこすらないで下さい。
・乾燥させる時、熱風をあてるとペーパーエレメントの接着部が痛むときがあります。低めの温風で乾かして下さい。
・エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。ゴミやホコリを吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。

エアクリーナの清掃、交換時期の目安				
フォームエレメント	清掃	**毎回作業前**	交換	100 時間毎
ペーパーエレメント	清掃	**毎回作業前**	交換	100 時間毎

⚠注意

・チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心がけて下さい。
・エアクリーナが目詰まりしたまま使用を続けるとエンジン焼付の原因となります。

点火プラグの点検・調整のしかた



① プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Ａにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
② 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
③ 点火プラグの電極隙間Ｂを 0.7～0.8mm に調整して下さい。

（参考）

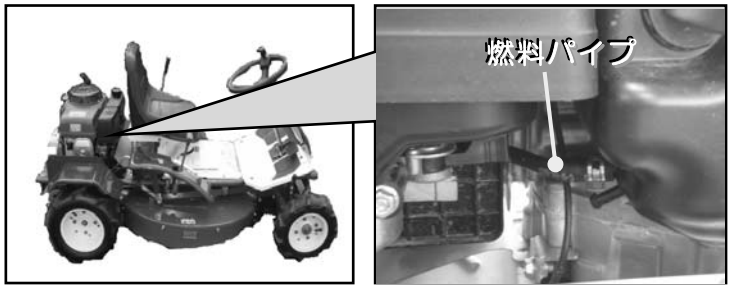
・締め付け時は、始め手でねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。始めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

＜点火プラグ基準…30 頁 仕様参照 ＞

燃料パイプ点検のしかた

⚠警告

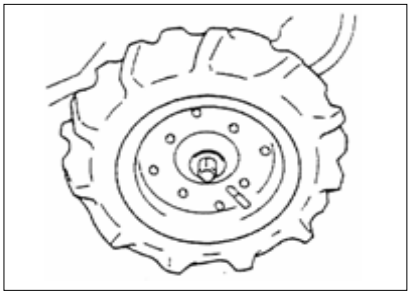
・本製品はガソリンを燃料としており、作業中の燃料漏れはもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等は引火の危険があります。



・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に３年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。パイプ類や締付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。交換時、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

タイヤ空気圧の調整のしかた

・前後輪のタイヤ空気圧のチェックを下表に従って行って下さい。
・左右のタイヤの空気圧が均等になっていないと作業中ハンドルを取られる恐れがあります。

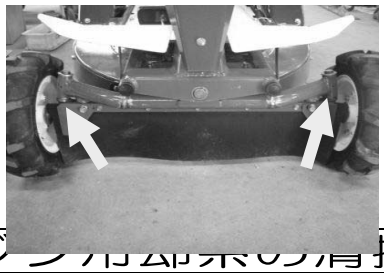


	タイヤサイズ	空気圧kg/ｃ㎡
前　輪	3.50-7	1.2
後　輪	16×7.00-8	1.4

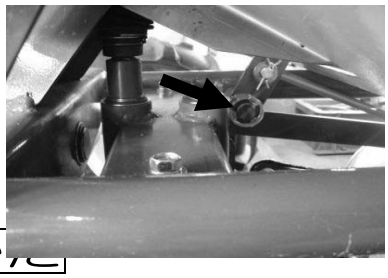
各部への注油のしかた

・約 30 時間毎にグリース又はエンジンオイル(#30)を操作しながら行って下さい。
注油を怠ると、油切れにより操作が重くなり、破損する恐れもあります。

ｷﾝｸﾞﾋﾟﾝ(2 箇所)



ｸﾗｯﾁﾌﾞﾚｰｷﾍﾟﾀﾞﾙ(1 箇所)



エンジン冷却系の清掃のしかた

① 毎回使用前にリコイル及びタンクブラケット内部に堆積した泥・草屑等の異物を取り除いて下さい。また、必要に応じてタンクブラケット内部をエア吹きして下さい。

② 作業終了後は、清掃のために取り外したカバー類を必ず元通りに取付けて下さい。

（参考）

・エア吹きする時はシートを立てたほうが草屑、ゴミ等が排出されやすくなります。

⚠注意

・各パーツはエンジンが冷えてから取り外し、清掃後は各パーツを全部取り付けないうちは、エンジンを始動させないで下さい。

・エンジン冷却系統に草屑等が堆積したまま作業を続けると、オーバヒートの原因となるばかりでなく、エンジン温度の上昇により、火災の原因となります。

・回転スクリーンはエンジンとともに回転します。手等を近づけないで下さい。ケガをする恐れがあります。

各部ベルト・ワイヤ・ロッド調整のしかた

⚠注意

・各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所においてエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛けた後、十分安全を確認して行って下さい。

・ベルト及びナイフブレーキの調整は、シートブラケット外した状態で行って下さい。

・作業方法が不明の場合には、製品お買い上げの販売店までご相談下さい。（この場合、有料となる場合があります。）

（１）走行ベルト調整のしかた

・走行ベルトはクラッチブレーキペダルを解除している状態では常に張られた状態にあります。走行中にベルトがスリップする場合にはテンションスプリングが掛けてある走行テンションバネアームの穴位置を変えてベルトの張りを調整して下さい。

〈ベルトサイズは 30 頁… 仕様参照 〉

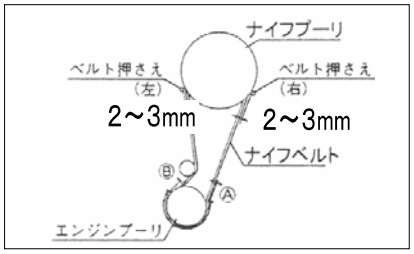
（２）ナイフベルト点検のしかた

・ベルトに損傷がないか目視点検してください。ヒビ、摩耗等の損傷があれば新品と交換して下さい。

〈ベルトサイズは 30 頁… 仕様参照 〉

（３）ベルト押え調整のしかた

・新しいベルトと交換した場合には以下の要領で調整して下さい。

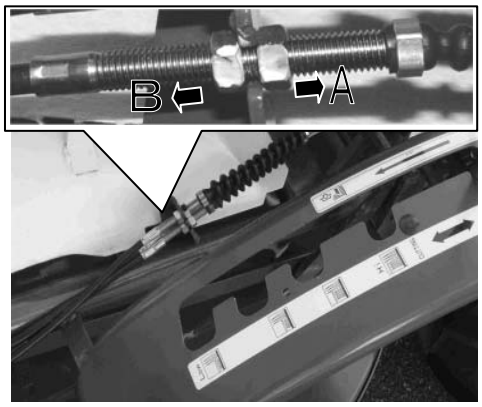


① ベルトはプーリの溝より少し浮く程度に両ベルト押えで押えて下さい。
② ナイフプーリ側のベルト押えとベルトの隙間を約 2～3mm にセットして下さい。
③ エンジンプーリ側のベルト押えとベルトの隙間Ａを約２～3mm、Ｂを約 10mm 程度にセットして下さい。

（参考）

・上記①はナイフクラッチレバーを「切」位置で、②及び③は「 入 」位置で行って下さい。

（４）ナイフブレーキ調整のしかた



・ナイフはナイフクラッチレバーを「切」位置にすると約５秒以内で停止します。停止しない場合は、ブレーキワイヤのアジャスタをＢ方向に移動して調整して下さい。（ブレーキの引きずりは本機故障の原因となります。）調整後はロックナットで確実に固定して下さい。
・調整が出来ない場合はブレーキライニングが摩耗しています。販売店に交換を依頼下さい。（有償となります）

⚠危険

・性能維持に限らず、特に制動面に関する定期点検は安全性維持のためにも不可欠です。乗用の場合には重大な事故につながる危険もありますので、必ず年次点検表に従った点検を少なくとも年に一回は製品お買い上げの販売店にご依頼下さい。(有償となります)

（５）駐車ブレーキ調整のしかた

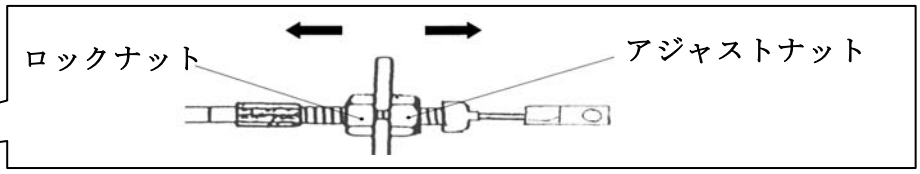
① 駐車ブレーキはミッションの右側後部にあり、これに接続されているブレーキロッドで調整して下さい。
② 調整はクラッチブレーキペダルを一杯に踏み込んだ時（ペダルをロックした時）後輪が「ロック」するようにブレーキロッド後部のアジャストナットで調整します。
③ アジャストナットを時計方向に半～１回転ずつ回しながら調整して下さい。締め込んでいくと早く効き始め、反対に弛めると効きが遅くなります。

⚠注意　**※下記作業は販売店までご依頼下さい。**

・ブレーキシューも消耗します。上記の方法では調整代が取れない場合に、ブレーキシューの摩耗が考えられます。又**安全のため使用時間が１００時間を越えない時点で定期交換をして下さい。**交換の際にはUナット（メック付）も同時に交換します。(ブレーキジョイントの取付け状態も同時に確認下さい)
・駐車ブレーキ先端での遊びが 15～20mm 程度になるよう調整し、(適度な遊びがないとブレーキのひきずりの原因になります)調整後はロックナットを確実に締め付けて下さい。
・走行・ナイフベルトも消耗します。異常があれば新品と交換して下さい。調整は初回１０時間目、以降５０時間運転毎に行って下さい。

（６）ナイフクラッチワイヤ調　整のしかた

B　A



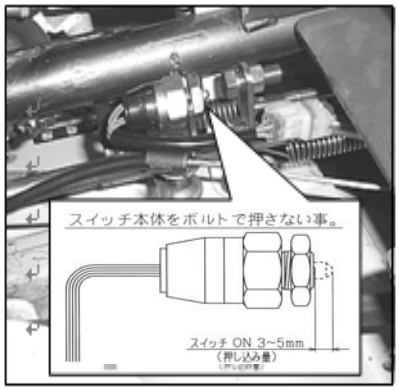
・左図のナイフクラッチワイヤのアジャスタナットで調整して下さい。

■ナイフベルトの張りが弱い場合。
…アジャストナットをＡの方向へ…

■ナイフベルトの張りが強い場合。
…アジャストナットをＢの方向へ…

（７）安全スイッチ調整のしかた

⚠注意



・シートに座り、刈高調整レバーは「移動」位置に、駐車ブレーキペダルはロックして（踏み込んで）いるにも関わらず、エンジンが始動しない場合は下記要領で安全スイッチの調整を行なって下さい。
・スイッチ先端が 3.0~5.0mm の範囲で押し込まれたとき作動するようになっています。この範囲以外でスイッチ先端が押し込まれた場合にはエンジンが始動しません。特に押し込みすぎた場合にはスイッチ本体が損傷する恐れがありますので左図を参考に安全スイッチの調整を行なって下さい。
・安全スイッチはシートブラケット下右側、刈高調整レバー根元、シート下の３箇所にあります。・安全スイッチ調整後は、ロックナットを締付け、シートは元の位置に戻してボルトを締めて下さい。

（８）走行ロッド調整のしかた

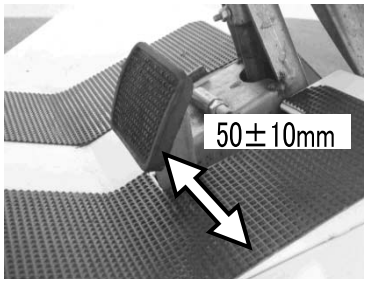


図１

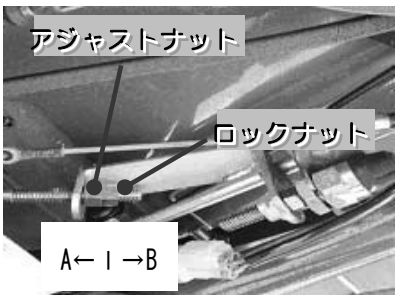


図２

①図１を参考にクラッチブレーキペダルをロックレバーでロックした状態から、ロックレバーを解除し、ゆっくりとクラッチをつないでいきます。
②本機が動き始めたときのペダル位置が、ロックした状態から 50±10mm 位置でつながるのが標準です。＜図 1 参照›
③上記寸法以外でつながる時は、走行ロッドのアジャストナットで張りを調整して下さい。＜図 2 参照›

・走行ロッドの調整はシート下のシートブラケットを外し（3 本の M8 ボルトで固定されています）行います。

■50±10mm 以下でつながる場合
・・・アジャストナットをＢの方向へ・・・
■50±10mm 以上でつながる場合
・・・アジャストナットをＡの方向へ・・・

いずれも調整後はロックナットを確実に締付け、シートブラケットを確実に取付けて下さい。

寒冷地での注意

□冬季は、使用後必ず本機に付着した泥や異物を取り除き、平坦でコンクリートか硬い乾燥した路面上に駐車して下さい。付着物が凍結して故障の原因になります。

□平坦地であれば、クラッチブレーキペダルは「ロック」せず、“輪止め”を使用してブレーキシューの張り付きを防止して下さい。

□又、凍結して運転不可能になった場合には、無理に動かそうとせずに、凍結箇所をお湯でとかすか、凍結が溶けるまで待って下さい。

（無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特に注意して下さい。）

《長期保管のしかた》

⚠警告

・本機を保管する場合は、堅い平坦な場所で本機を水平にして下さい。
・燃料を抜く時は火気厳禁。
・風通しの良い場所で行って下さい。
・燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンとマフラが冷えてから行って下さい。
・抜いた燃料の取扱いには十分に注意して下さい。
・取り外したホース、クリップ、ドレンボルト類は元通りに取り付けておいて下さい。
・くわえタバコや裸火照明での作業禁止

① 本機を30日以上使用しないときには､燃料変質による始動不良又は運転不調にならないよう、まず燃料タンク内の燃料をポンプ等で給油口から容器に抜き取り、残りの燃料を燃料コックのタンク側の燃料ホースをクリップを上側にずらして外し、残留燃料を容器に移して下さい。次にドレンボルトをドライバで弛め、気化器内の燃料を容器に排出し、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

② エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。(取り外した部品は元通りに取付けておいて下さい)

③ エンジンオイルを交換して下さい。 〈21 頁…エンジンオイル交換参照〉

④ 各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスタータ、エアクリーナ、マフラ、気化器付近やベルトカバー内に堆積した草やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

⚠警告

・草やホコリが堆積したまま作業を続けると草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し､焼き付や､火災の原因になります｡

(参考)

・ナイフカバー内の草屑はこれが乾かないうちにホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的簡単に洗い落とすことができます。
・この時、エンジンの電装関係や気化器、エアクリーナ、マフラ排気口に水がからないようカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

⑤ 各給脂・注油箇所にそれぞれグリースアップ、注油をしておいて下さい。

⑥ 駐車ブレーキを掛けて、屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れて下さい。

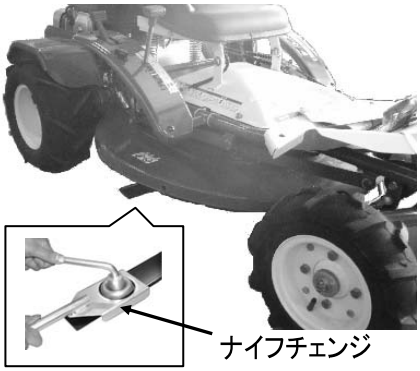
《ナイフの点検・交換・修正のしかた》

ナイフの点検・交換

■作業を安全に行うため、ナイフ及びナイフステーの作業前点検を行って下さい。■

⚠危険

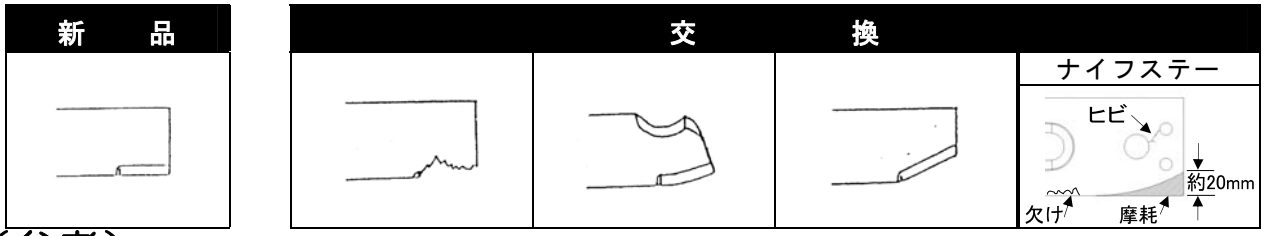
- ***ナイフステーを含むナイフ交換に必要な部品等は全てメーカー純正品とご指定下さい。メーカー純正品以外の使用による故障・事故については保証の対象外となります。***
- 作業中縁石や木の根等にナイフが当たり衝撃があった場合には、直ちに作業を中断し、ナイフ及びナイフステーに曲がりや欠損・摩耗が生じていないか点検し必要が有れば交換をして下さい。作業前にも前回作業時での要修理箇所が確実に修理、調整が行われている事を確認して下さい。
- ナイフ及びナイフステーの摩耗、割れ、曲がり、欠損等を放置したまま作業を続けると、作業中急にナイフが折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当ったりして重大な人身事故を招く恐れがあります。
- ナイフは高速で回転します。少しでもナイフが欠けたり、折損したりするとそれだけで振動の原因となります。振動したまま作業を続けると危険なばかりでなく、本製品各部のヒビや割れ発生の原因となり、本機寿命を著しく縮めます。
- ケガを避ける為、点検・交換は丈夫な手袋を付け、必ず製品付属の専用工具(ナイフチェンジ)を使用して下さい。
- ナイフステーの交換には特殊な工具と整備技術が必要です。作業は製品お買い上げの販売店へご依頼下さい(有償)。同時に袋ナット、ナイフステー取付ボルトの交換も必要です。
- ナイフの表裏入替時にはナイフ取付ボルトを、ナイフの交換時にはナイフ取付ボルトを含むその他の部品(ハードロックナット、ナットガード、ナイフカラー［次頁参照］)も必ず同時に交換し、決して他のボルト・ナットで代用しないで下さい。
- ナイフの表裏入替と交換は必ず２枚共同時に行って下さい。片側のみの交換及び新旧ナイフの混同は異常振動の原因となります。



■ナイフの点検のしかた

① エンジンを停止して下さい。〈15 頁…停止（駐車）のしかた参照〉
② 刈高調整ハンドルで刈高さを「**移動**」位置にして下さい。
③ サイドカバーを取り外して下さい。
④ ナイフ及びナイフステーの取付状態を点検して下さい。
⑤ ナイフ及びナイフステーの割れ、曲り、摩耗を点検して下さい。

下図の様な状態になっていれば販売店でナイフの修正・交換して下さい。



（参考）

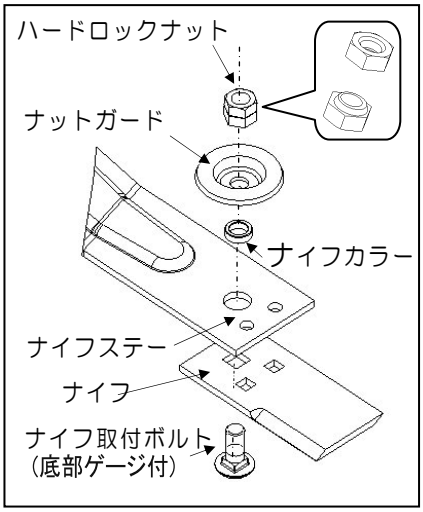
- ナイフ同様ナイフステーも消耗します。曲げ、摩耗等が認められない場合でも**１００時間、若しくは２年毎**のいずれか早いほうで交換して下さい。
- 乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早い為頻繁に点検して下さい。
- 予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元におかれておくことをお奨めいたします。

⚠警告

ナイフの取付けが不十分だと作業中急にナイフが折損したり外れて飛び出し、作業者や付近にいる人に当って重大な人身事故を招く危険があります。下記を参考に確実に取付けて下さい。

■ナイフ交換のしかた

□ナイフの交換(表裏の交換)が必要な場合には、下記を参考にナイフの脱着を行って下さい。□



①必ずナイフチェンジを使い、ハードロックナットを弛めてナイフを取り外して下さい。(まず上段のロックナットのみに２２のボックス又はメガネレンチを掛けて取り外し、その後下段のナットも同様に取外して下さい。)

②表裏の入替時はナイフ取付ボルトを、ナイフの交換時にはナイフ取付けボルトを含むその他の部品も同時に交換して下さい。(交換しなかった場合、摩耗、変形、破損等で作業中ナイフが飛散する恐れがあります。)

③新しいナイフへ交換(裏返し)をした後、下側、上側の順番で一つずつ確実に、ハードロックナットを締付けて下さい

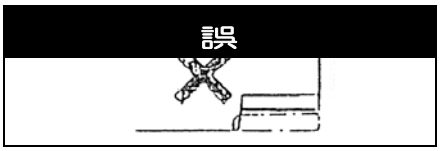
参考；

・ハードロックナットの締付トルクは「８００ｋｇｆ･ｃｍ」（７８．４N･m）です。
目安として３０ｃｍ長のメガネレンチ(サイズ２２)で、約３２kgf 以上の力で締め付けて下さい。
・締付トルクの確認にはトルクレンチが必要です。上記トルクがどれくらいの締付力か事前に販売店等で確認(体得)しておく事をお奨めします。
・乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早いため頻繁に点検して下さい。
・予め予備のナイフ、取付けに必要な部品一式を手元に置かれておくことをお奨めします。
・ナイフ交換時には、ナイフカラーを紛失しないよう注意して下さい。

◇◇ナイフ取付けボルト裏面のゲージ(くぼみ)が摩耗してなくなれば交換時期です。◇◇

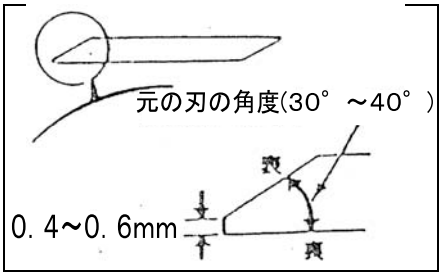
ナイフの修正

□□修正を行うとナイフの初期の性能が損なわれますのでご承知おき下さい。□□



①以下の要領でナイフを研摩して下さい。
・研摩の際には、ナイフをしっかりと保持して下さい。
・ナイフを元の刃と平行に研摩すると、破損の原因となります。左図のように研磨して下さい。
・ナイフのバランスを崩さないように、使用する両側の刃を同量だけ研摩して下さい。

②刃先には0.4～0.6mm程度の平らな部分を残しておいて下さい。かみそりの刃のように刃先をとがらせると、すぐに摩耗し切れ味が鈍ります。



参考；
グラインダで研摩する際には、水をかけながらナイフの温度を上げないようにして少しずつ研摩して下さい。ナイフの温度が上がりすぎると熱処理が戻り、摩耗が早くなります。

⚠注意

・周囲に燃料、バッテリ等引火物のない場所で作業を行って下さい。
・グラインダを使用する際には必ず帽子、厚手の手袋、防護メガネ等をつけて安全に注意して行って下さい。
ナイフの修正は必ず左右共に行って下さい。〈片方のみの修正は禁止！〉
・両ナイフのバランスが取れていないと異常振動が生じ、本機破損の恐れもあります。

《仕　様》（参考数値）

名　称		ラビットモアー
型　式		ＲＭＪ８００
全長×全幅×前高(㎜)		１６40×９００×900
刈　幅(㎜)		８２０
重　量(kg)		１７５
刈　高(㎜)		①10　②20　③40　④50
ナイフ(枚)		フリーナイフ×２＆段付ステー×１
ベルト(本)	走行	ＲＣＬＢ－２９×１本
	刈取	SG1000　ＬＢ７５×１本
タイヤサイズ(本)		(前輪)3.50-7(Φ350)×２，(後輪)16×7.00-8(Φ400)×２
ハンドル		丸ハンドル(上下３段調整可)
ブレーキ		ミッション装備内拡式駐車ブレーキ
前　進(㎞/m)		①1.7，②2.8，③4.6，④7.0(移動用)
後　進(㎞/m)		2.0
作業能率(ａ/ｈ)		①１３，②２２，③３６
エンジン	名　称	ホンダ
	型　式	GXV340
	排気量(cc)	337
	潤滑油量(ﾘｯﾄﾙ)	1.1
	出力(HP/RPM)	9/3200
	始動方式	リコイル式
	点火プラグ	ＢＰＲ５ＥＳ（NGK)、Ｗ１６ＥＰＲ－Ｕ（ＮＩＰＰＯＮＤＥＮＳＯ）
	タンク容量(ﾘｯﾄﾙ)	2.1

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

《工具袋・同梱品明細》

No.	部　品　名	規格・寸法	個数	備　　考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	販売店控
3.	両口スパナ	10×12	1	
4.	〃	14×17	1	
5.	Ｌ型レンチ	19mm	1	
6.	ナイフ取付ボルト	M12	2	ナイフ表裏入替時用
7.	ナイフチェンジ		1	ナイフ交換用工具
8.	ゴーグル	防曇タイプ	1	保護具
9.	年次点検表		1	販売店控

《消耗品明細》

No.	部　品　名	部 品 番 号	個数/台	備　考
1.	ナイフ＆取付ボルトセット	0247-78010	1	ナイフX2、取付ボルトX4、ナットガードX2、ハードロックナットX2、ナイフカラーX2のセット
2.	取付ボルトセット	0247-78210	2	取付ボルトX2、ナットガードX1、ハードロックナットX1のセット
3.	ナイフチェンジ	0244-52400	1	
4.	ナイフ	0247-89100	2	
5.	ナイフステー	80-1481-817-10	1	
6.	ナイフカラー	80-1481-818-00	2	
7.	ナイフ取付ボルト	0237-50100	2	M12×32
8.	ハードロックナットM12	0247-74600	2	M12用
9.	ナットガード（12）	0247-51800	2	M12用
10.	ナイフステー取付ボルト	83-1483-128-00	2	Ｍ１０×３０
11.	バネ座金	89-1750-100002	2	Φ10
12.	小型六角袋ナット	83-1732-175-00	1	M16細目メック付
13.	バネ座金	89-1750-160002	1	Φ16
14.	走行ベルト	89-6133-002901	1	HP-2 SB-29
15.	ナイフベルト	89-6123-007500	1	LB75
16.	ナイフクラッチワイヤ	0244-72300	1	
17.	ナイフブレーキワイヤ	0294-70200	1	
18.	スロットルワイヤ	83-1484-952-10	1	
19	注意ﾏｰｸ 17	83-1516-908-00	3	
20	ナイフ警告マーク	83-1484-921-00	1	
21	RM警告ラベル（一般）	0307-75300	1	
22	RM警告ラベル(作業)	0262-81200	1	

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は１年に１回、月次点検は１ケ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。アワメーターを参考にして下さい。

項目		点検内容		点検実施時期		
				始業	月次	年次
原動機	本体	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか	○	○	○
		②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか	○	○	○
		③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか		○	○
		⑤シリンダヘッドと各マニホルド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか			○
		＊⑥弁すきま	**バルブクリアランスは適正か（正規の隙間であるか）**			○
		＊⑦圧縮圧力	**ピストンリングに摩耗は無いか（正規の圧縮圧力であるか）**			○
		⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み	エンジンベースに亀裂､変形又はボルト･ナットに弛みはない	○	○	○
	潤滑装置	①油量、汚れ	オイル量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか	○	○	○
		②油漏れ	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか	○	○	○
	燃料装置	①燃料漏れ	燃料の漏れはないか	○	○	○
		②燃料フィルタの詰まり	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか		○	○
		③燃料の量及び質	燃料は入っているか、又質は良いか	○	○	○
	電気装置	①電気配線の接続部の弛み、損傷	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか		○	○
	清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか	○	○	○
		②エレメントの破損	エレメントに破れ、スリ切れはないか	○	○	○
	冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか	○	○	○
		②マフラへの草屑等の堆積	マフラ周辺に草屑が堆積していないか	○	○	○
伝達装置	ベルト	①弛み	ベルトの張り具合は適切か	○	○	○
		②損傷、汚れ	亀裂、損傷、著しい汚れはないか		○	○
	ミッション	**＊①異音、異常発熱及び作動**	**作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか**		○	○
		＊②油量、汚れ	**オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか**			○
		＊③油漏れ	**オイルシール、パッキン部に油漏れはないか**	○	○	○
制動装	ブレーキ	①駐車ブレーキの利き具合	ブレーキの利きは甘くないか、又引きずりはないか	○	○	○
		②遊び	駐車ブレーキペダルの遊びは適切か	○	○	○
		＊③ロッド及びワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ピンの欠落	**著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか**	○	○	○
車体	車体	**＊①亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落**	**フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み、脱落はないか**		○	○
	カバー	**＊②亀裂、変形、腐食**	**亀裂、変形、腐食はないか**			○
	可動部	①各レバー＆ワイヤ等の作動状態	作動はスムーズか、油切れを起こしていないか		○	○
変速	変速レバー	**＊①操作具合**	**作動に異常はないか**	○	○	○
		②弛み、ガタ	レバー取付位置に	○	○	○
走行装置	タイヤ（ホイル）	①空気圧及び溝の深さ	基準値内であること	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み	異物の噛み込みはないか	○	○	○
		④ボルト・ナットの弛み、脱落	ボルト・ナットの緩み、脱落はないか	○	○	○
		⑤ガタ、異音	取付部に異音、ガタはないか		○	○
刈取	ナイフ	**①ナイフの変形、亀裂、摩耗**	**ナイフに摩耗、欠け、反りはないか**	○	○	○
		②ナイフの取付状態	ボルト、ナットに弛み、摩耗、脱落はないか	○	○	○
		③ナイフブレーキ	**ナイフブレーキの効き具合は適正か（5秒以内に停止するか）**	○	○	○
安全	表示ﾏｰｸ	①損傷	警告表示マーク及び銘板が損傷なく取付けられているか		○	○
	反射板	①損傷、脱落	損傷及び脱落はないか		○	○

※＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《自己診断表》

次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。

現　　象	原　　因	処　　置
刈草がうまく放出しない	草が湿っている	草が乾燥してから作業する
	草が長い	刈高さを高くして二度刈する
	刈高さが低い	刈高さを高くする
	エンジン回転が低い	最高回転にする
	作業速度が速い	作業速度を落とす
刈残しが出る	作業速度が速い	作業速度を落とす
	エンジン回転が低い	最高回転にする
	ナイフの摩耗、破損	新しいナイフと交換する
	ナイフカバー内への草屑の堆積	ナイフカバー内側を清掃する
	草が長い	刈高さを高くして二度刈する
	追刈りをしている	向かい刈りをする
土削りを発生する	刈高さが低い	刈高さを高くする
	旋回速度が速い	旋回時の速度を落とす
	地形にうねりがある	刈取りパターン(刈取り方向)を変える
	地形の起伏(凸凹)が多い	刈高さを高くする
	ナイフの曲がり	新しいナイフと交換する
ナイフがスリップする	ベルトの張力が低い	ベルトの張力を調整する
	ナイフカバー内へに異物の詰まり	ナイフカバー内を清掃する
	プーリへの草の堆積	プーリをきれいに清掃する
	ベルトの摩耗	新しいベルトと交換する
ナイフが５秒以内に停止しない	ナイフブレーキの摩耗	ナイフブレーキを交換する
	ナイフブレーキワイヤの調整不良	ナイフブレーキを調整する
振動が大きい	ナイフのバランスが悪い	ナイフを修正する
	ナイフの損傷	新しいナイフと交換するか、修正する
	ナイフネックガードへの草の堆積	ナイフネックガード内部を清掃する
	ナイフ軸が曲がっている	ナイフ軸を交換する。
	ナイフベルトの破損	新しいベルトと交換する
刈取り作業負荷が大きい	エンジン回転が低い	エンジン回転を上げる
	作業速度が速い	作業速度を落とす
	ナイフの回転軸への草の巻き付き	ナイフ軸をきれいに清掃する
	草が長い	刈高さを高くして、二度刈りをする
	刈高さが低い	刈高さを高くする
タイヤがスリップして直進しない	圃場が軟弱である	圃場が乾くまで作業を中断する
登坂力が低下したようだ	走行ベルトの張力不足	走行ベルトを張るか交換する
変速レバーを操作しても本機が動かない	駐車ブレーキが解除されていない	駐車ブレーキを解除する
駐車ブレーキの利きが悪い	ブレーキシューの摩耗	ブレーキシューの交換
	ブレーキドラム内へのオイルの侵入	脱脂とオイルシールの交換
	ブレーキドラム内への水の浸入	ブレーキを入・切しドラム内を乾かす
	調整不良	ﾌﾞﾚｰｷ後部のｱｼﾞｬｽﾄﾅｯﾄで調整する
	タイヤの摩耗	タイヤを交換する。
	割ピン、アジャストナットの脱落、弛み	割ピン、アジャストナットの交換、増締め

※ わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現　　象	原　　因	処　　置
エンジンが掛からない	クラッチブレーキペダルを踏み込んでない	ペダルを踏み込むかストッパでロックする
	刈高調整レバーが「移動」位置でない	刈高調整レバーは始動時「移動」位置にする
	セーフティスイッチの調整不良	シートに座って始動する
	カプラ配線の外れ	接続する
	ヒューズ切れ	ヒューズを交換する
始動困難な場合	スロットルレバーが「N」位置でない	スロットルレバーを「N」位置にする。
	燃料が流れない	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する
		燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去し付着しているゴミを取り除く
	燃料送油系統に空気や水が混入している	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする
	点火コイル、又はユニットの不良	＊点火コイル、又はユニットを交換する
	点火プラグの不調	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する
		新しい点火プラグと交換する
	燃料の質が悪い	新しい良質の燃料と交換する
	燃料不足	燃料を補給する
出力不足の場合	燃料不足	燃料を補給する
	エアクリーナの目詰まり	エレメントを清掃する
	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する
	チョークが完全に開いていない	スロットルレバーを「高」から「低」の位置にする
	冷却系統が目詰まりをしている	リコイル周辺を清掃する
突然停止した場合	燃料不足	燃料を補給する
	燃料コックが閉じている	燃料コックを開く
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する
	エンジンオイルの入れすぎ	正規のオイル量にする
マフラから黒煙が出､出力が低下した	エアクリーナエレメントの目詰まり	エレメントを清掃する
	チョークが完全に開いていない	スロットルレバーを「高」から「低」の位置にする
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ	正規のオイル量にする
	シリンダ・ピストンリングの摩耗	＊リングを交換する
エンジン回転が安定しない	チョークが完全に開いていない	スロットルレバーを「高」から「低」の位置にする
	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する
しばらくするとエンストする	点火コイルの不良	＊点火コイルを交換する
	燃料フィルタの目詰まり	燃料フィルタを清掃する
排気に刺激臭がある	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する

※＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい

。

OREC
FUKUOKA JAPAN
株式会社
オーレック

本　　社	〒８３４－０１９５	福岡県八女郡広川町日吉５４８－２２	TEL.0943-32-5002(代) FAX.0943-32-5009
仙台営業所	〒９８３－０８２１	宮城県仙台市宮城野区岩切２－１－１５	TEL.022-255-3009(代) FAX.022-255-3039
長野サービスセンター	〒３８７－００１２	長野県千曲市桜堂字西沖３３５－１	TEL.026-273-5686(代) FAX.026-273-5687
関東営業所	〒３３７－００５１	埼玉県久喜市菖蒲町菖蒲２８００	TEL.0480-87-3008(代) FAX.0480-87-3009
名古屋営業所	〒４９１－０８７１	愛知県一宮市浅野字馬東４１－１	TEL.0586-77-7002(代) FAX.0586-77-7003
岡山営業所	〒７００－０９５１	岡山県岡山市田中１２３－１０４	TEL.086-245-2568(代) FAX.086-245-2569
福岡営業所	〒８３４－０１９５	福岡県八女郡広川町日吉５４８－２２	TEL.0943-32-4778(代) FAX.0943-32-3518
鹿児島営業所	〒８９９－６４０４	鹿児島県霧島市溝辺町麓８４３－６	TEL.0995-58-3991(代) FAX.0995-58-2491